

経営比較分析表（平成29年度決算）

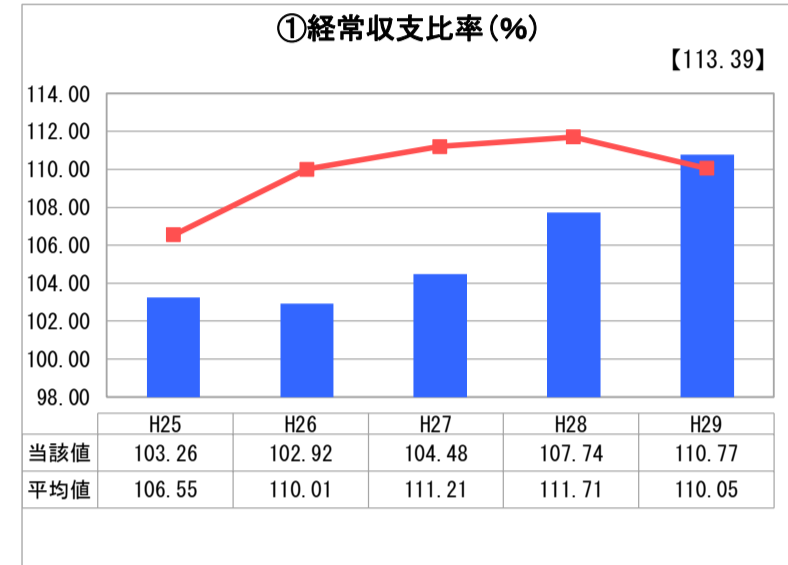
熊本県 宇土市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.57	68.74	3,180	

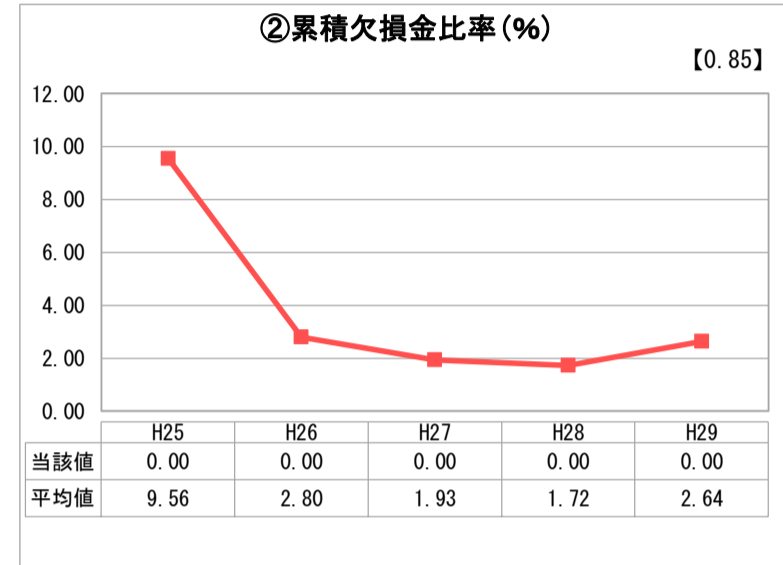
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
37,403	74.30	503.41
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,666	14.05	1,826.76

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

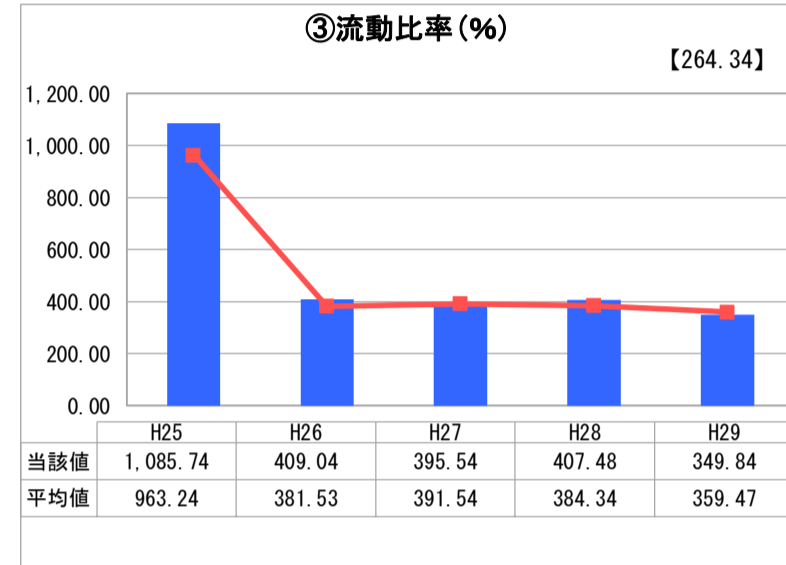
1. 経営の健全性・効率性



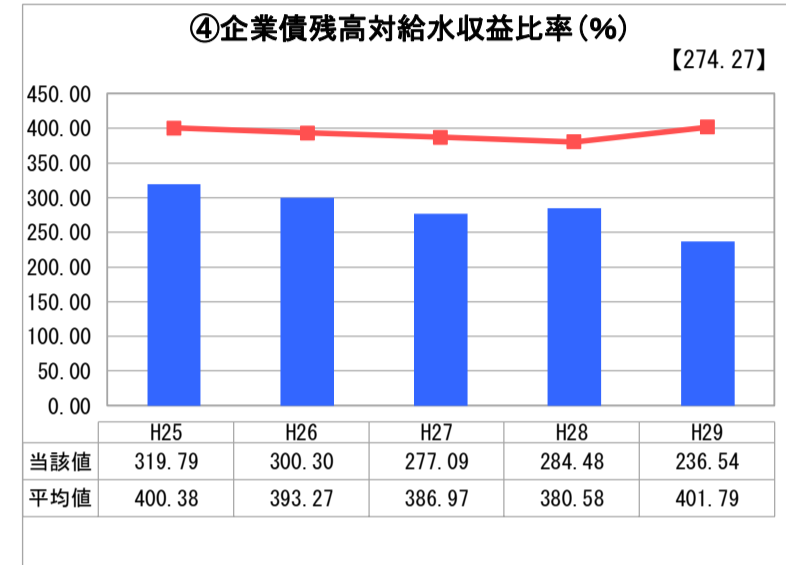
「経常損益」



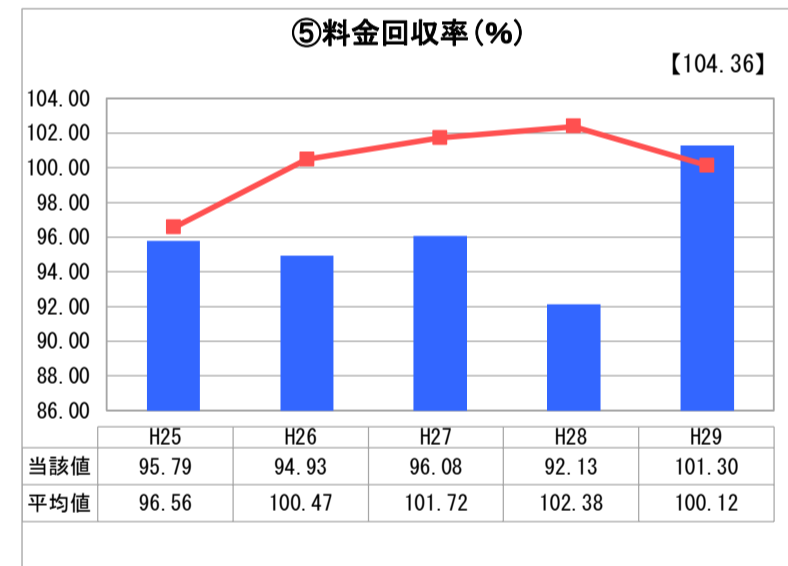
「累積欠損」



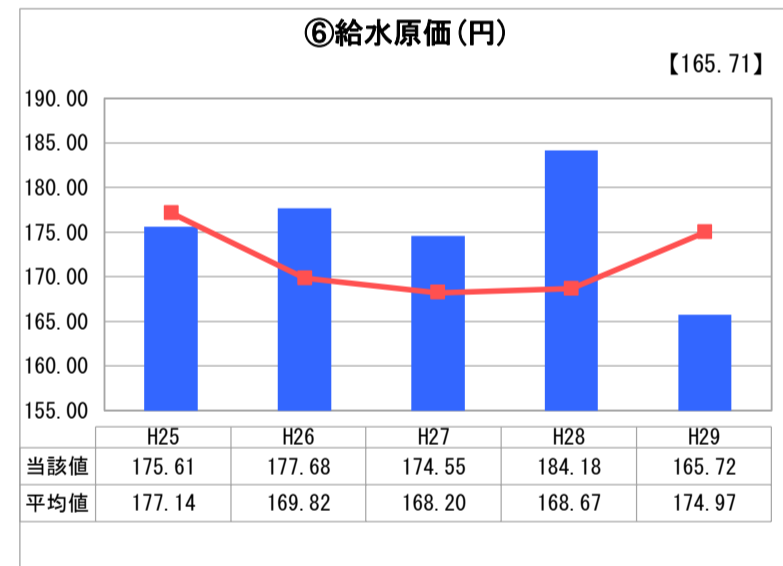
「支払能力」



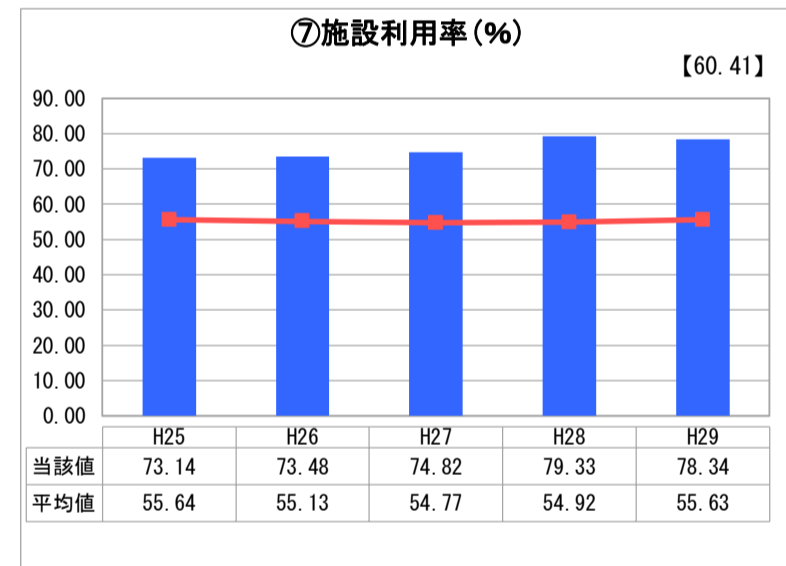
「債務残高」



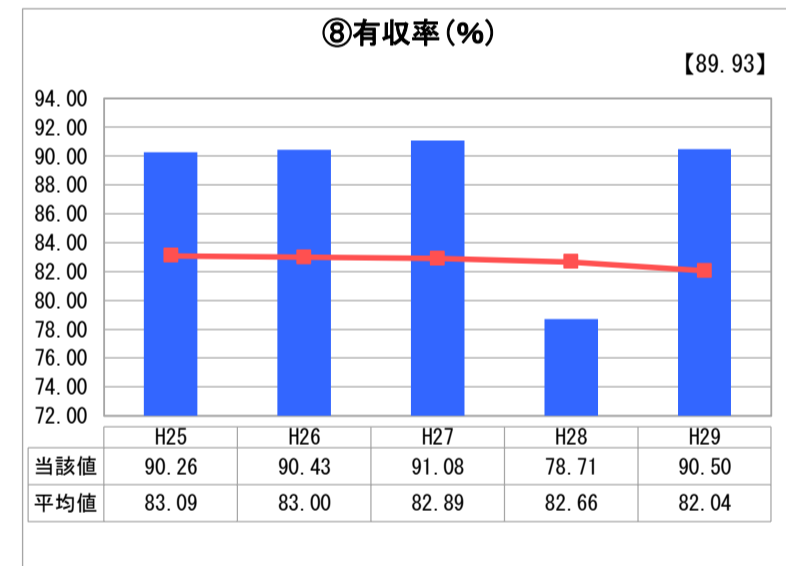
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

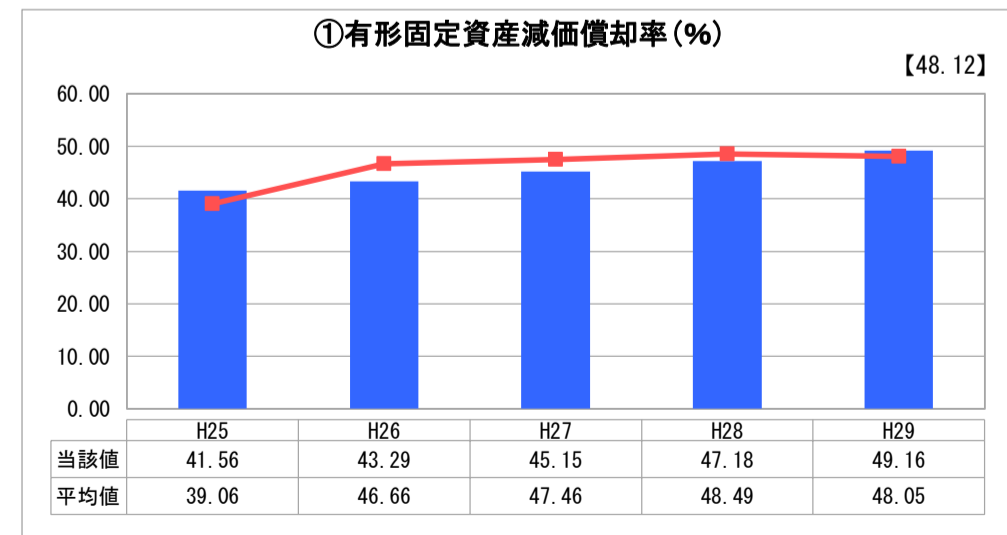


「施設の効率性」

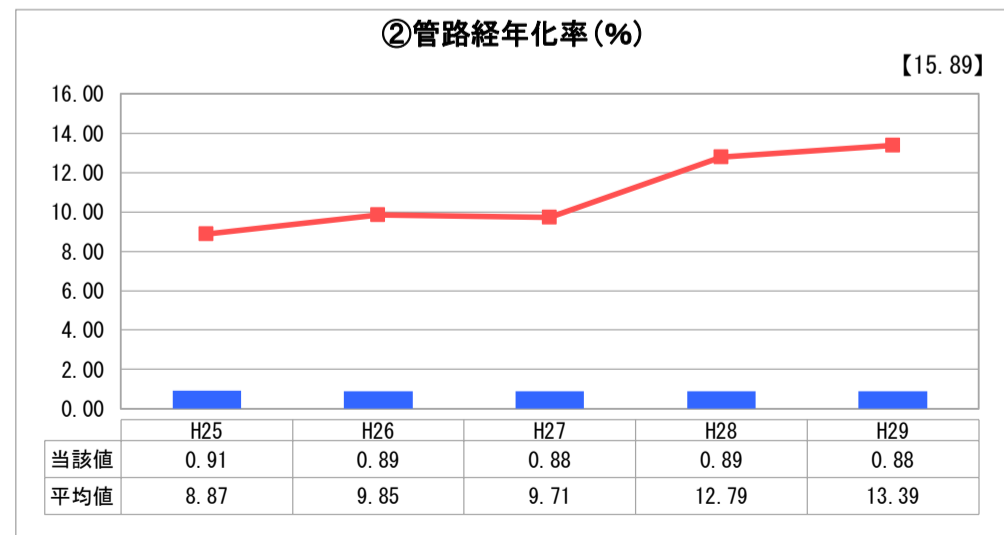


「供給した配水量の効率性」

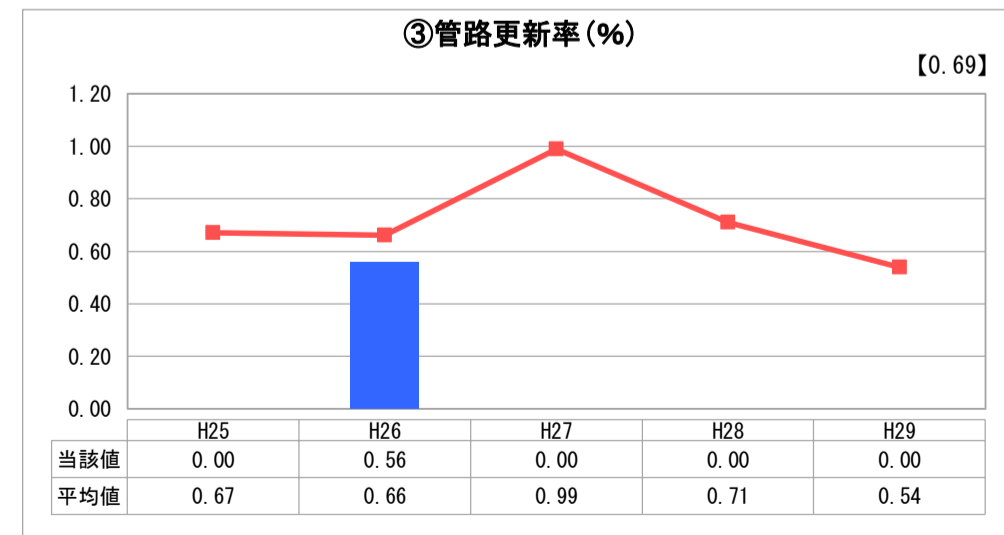
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損金もないことから、現時点では経営は堅調に推移している。
 ③流動比率は349.84%で、100%を上回っており、類似団体と同程度であり現金は十分確保され、健全性は保たれている。しかし、公共下水道事業からの徴収委託費に依存している部分があるため料金収入で賄っていくことが望ましい。
 ④企業債残高対給水収益比率は、平成28年度の熊本地震に伴う災害復旧事業債以外は近年発行抑制に努めた結果、着実に減少傾向にあるとともに、類似団体より低い水準を維持している。
 ⑤料金回収率は100%を上回り、類似団体と比較しても高い水準である。今後は更新投資等に充てる財源を確保しつつ、健全経営に努める。
 ⑥給水原価は165.72円で、類似団体に比べると少額である。これは有収水量が増加したためである。
 ⑦施設利用率は類似団体より高い水準である。今後、人口減少に伴い施設利用率の減少が見込まれることから、広域連携による施設規模の縮小など、検討していく必要がある。
 ⑧有収率は90.50%で、類似団体と比較すると高い値となっている。平成28年度のみ低い値となっているのは、熊本地震により減免措置を行ったためである。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は年々微増しており、今後も更新時期を迎える管や施設が増加する傾向にある。
 ②耐用年数を超えた管路は毎年同じ率を計上しており、類似団体と比較しても数値が低く適切な更新を行っている。今後も計画的な老朽管の更新を行い、事業の平準化を図る必要がある。
 ③管路更新率は極めて低く、今後老朽化が進むことが見込まれるため、順次更新を行っていく必要がある。

全体総括

現時点では、本水道事業の経営は堅調に推移しているが、今後人口減少に伴う給水収益の減少や、受水単価の値上げに伴う経常費用の増加などにより、経営状況は悪化する見込みである。また、施設等の老朽化により更新が必要になり、必要経費が増加する見込みのため、長期的な施設更新計画を立て、収支のバランスを考慮しながら更新事業に取り組む必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。